

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 046	提案機関名 農業技術センター三浦半島地区事務所
要望問題名 露地抑制カボチャの安定生産技術の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦半島でのカボチャ栽培面積は193ha（平成18～19年 神奈川農林水産統計年報 横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町の合計）であり、県内の栽培面積の約8割を占めている。栽培時期は1～4月まき5月下旬～8月上旬出荷がほとんどである。近年、抑制栽培は他県で増えてきているが、三浦半島でも8月まき11月どりの抑制カボチャを数戸の農家が作付している。資材は夏作のカボチャと共通して使え栽培技術の基本は生産者も把握しているが、県内での露地抑制栽培の試験研究データが無いため生産者から生産方法（生産時期、施肥量等）について、研究をして欲しいとの要望がある。 出荷面で見ると、北海道産が終了し沖縄産が出回るまでの間、国産のカボチャが無く国産の需要がある。そのため、保存状態により何日間日持ちがするかについてもご検討のほどよろしくお願ひしたい。	
解決希望年限	③4～5年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター
備考	

回答機関名	農業技術センター三浦半島地区事務所	担当部所	研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 三浦でのカボチャ抑制栽培試験は平成20年度試験成績「冬至カボチャの栽培検討」で実施されており、当地域でのカボチャ抑制栽培は8月上旬定植、11月上旬収穫、その後11月下旬まで保存し、冬至カボチャとしての出荷が可能と考えられる。しかし、解決の必要な問題があり、一点目として8月上旬定植では小玉果の傾向となることから、農協共販では大玉果のブランドイメージダウンの懸念。二点目として栽培期間中の台風被害対策が確立していない。三点目としてワタアブラムシ媒介のウィルスにより被害は甚大となるが露地における有効な防除対策が確立していない。 このような現状から問題解決策がない限り、現行の夏作カボチャ露地栽培体系を基本とした方法では特殊なケース（直売、暴風被害の少ない地形、ウィルス病発生が少ない等）でなければ当地域での汎用的な栽培は困難である。具体的な問題解決策が情報等で得られた場合に課題化して取り組みたいと考える。現在、三浦では抑制カボチャの取り組みを始めている農家があるので、果実保存状況等については、普及指導課での現地指導対応での調査を御願ひしたい。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			